

報告
FILE COPY
RETURN TO ROOM 361

2310

香港港内ニ於ケル汽船「セルゲイ・ラゾ」号ニ対スル日本機ノ投弾及日本軍ノ「ソビエト」國有財産掠奪ニ関スル件。

太平洋水域軍事檢察局ヨリ作レタ調査ハ次の如シ。
汽船「セルゲイ・ラゾ」号ハ一九四一年（昭和十六年）八月末以降香港港内ニテ修理ヲシツツアツタガ、本船ハ日本ノ対米英軍事作動開始ノ結果斯ル状態ニ引留メラレタ。

一九四一年（昭和十六年）十二月九日汽船「セルゲイ・ラゾ」号全場碇泊地オ四号浮標ニ轂系留セラレタ。

一九四一年（昭和十六年）十二月十一日二回ニ亘リ日本機ヨリ爆撃ヲ受ケタガ、命中シナカツタ。船体ニハ

「ソビエト」社会主義共和国聯邦所屬ノ標識ガアリ又「ソビエト」聯邦ノ國旗ガ掲ゲラレテタ。

日本軍統帥部ノ命令ヨリ船長「グウク」ヲ含ム汽船「セルゲイ・ラゾ」号ノ乗組ノ人々ハ本船ヲ離レ日本

Ex A20

2310

軍監視下日本司令部隣接、九龍市

プリンスエドワード街二七二号、家屋ニ轉住シタ。

一九四二年（昭和十六年）十二月二、三日乗組員、
居住セル家屋ニ落テセル砲彈ニヨリ火災アリ、ボルト
ノ死トシ又水夫ボルトノハ重傷ヲ受テテ乗組員ニヨリ
病院ニ運バシタ。

汽船「ワレエツト」「スビリストロイ」及「シムエ」ボルト
ノ「ソビエツト」海員、大多數ハ香港ニ居タ。九龍ニ居
住シテ中々海員ニ對シテ日本軍統帥部ハ香港
ニ居住セル「ソビエツト」海員ト交際スルコトヲ禁ジタ。

日本軍統帥部ハ九龍ニ於テ汽船セルゲイ・ラズ
ノ乗組員警備隊、隊長デアツタ海軍大尉ニ各
ヲ通シ再ニ汽船船長「ワレエツト」ニ對シ正式ニ汽船「ワ
レエツト」号ハ英人ニヨリ撃沈サレ又汽船「スビリストロイ」
ハ同様英人ニヨリ砲撃サレタト日記述スル様ニ、コノ外
ニ何語ニテモ構ハヌガ感謝狀ニ通ヲ一通ハ日本軍統
帥部宛日本軍ハ「ソビエツト」海員ニ對シ好意的態度
ヲトツタ旨ヲ、又次ノ一通ハ海軍大尉ニ各個人宛汽

2310

船「ゼルゲイ・ラジ」號乗組員ニ對スル待遇ニ関シ書ク様要
求ヲ提出ス。然ル場合ニハ乗組員ハ香港市ニ移サシ
且大多數ハソビエツト海員ト合併シ又乗船ヲモ許
サレバ若シ船長「グウ」ガコシノ條件ヲ遂行シケレ
バ汽船「ゼルゲイ・ラジ」号ノ全乗組員ハ無期限ニ九龍
市ニ居住シ彼等ノ内何人モ乗船ハ許サシナイデアラ
ウト云フノデアツタ。

日本当局ニヨリ汽船「ゼルゲイ・ラジ」号乗組ノ者ニハ乗
船ヲ許サシナカツタガ、ソビエツト船上テ連日日本軍ニ
ヨリ人員ノ交代ガ行ハシ又日本國旗ガ掲揚サレハシガ認
ラシタ。

一九四二年(昭和十七年)六月二十三日、日本軍統帥部
許可ヨリ船長「グウ」、一等運転士「クモフエフ」、高級運
転士「キリ」、高級機関士「クルウリス」及其他乗組ノ者
ガ九龍「ドック」ニ繋系索シテアツタ本船ノ保存、爲ニ乗船
ヲ許サシタガ、彼等ハ日本軍ガ甲板部船用品、舵手用
具、掌帆具、食器、廚房及火災用物品救護用具、
特殊衣類、文化用品、船舶無線電信器材、乗組

船「セルゲイ・ラゾ」號乗組員ニ對シテ遇ニ因シ書ヲ様要
 求コ提出シタル然ル場合ニ乗組員ハ香港市ニ移サレ
 且大多數ノソビエツト海員ト合併シ又乗船ヲモ許
 サレルガ若シ船長「グウク」ガコレノ條件ヲ遂行シテケレ
 バ汽船「セルゲイ・ラゾ」号ノ全乗組員ハ無期限ニ九龍
 市ニ居住シ彼等ノ内何人モ乗船ハ許サレナイデアラ
 ント云フノデアツタ。

日本当局ニヨリ汽船「セルゲイ・ラゾ」号乗組ノ者ニ乗
 船ヲ許サレナカツタガ、ソビエツト船上デ連日日本軍ニ
 ヲリ人員ノ交代ガ行ハレ又日本國旗ガ掲揚サレルガ認メ
 ラレタ。

一九四二年(昭和十七年)六月二十三日、日本軍統帥部ノ
 許可ニヨリ船長「グウク」、一等運転士「サモフエフ」、高級運
 転士「キリ」、高級機匠士「タルウリス」及其他乗組ノ者
 ガ九龍「ドック」ニ繋索シテアツタ本船ノ保存ノ爲ニ乗船
 ヲ許サレタガ、彼等ハ日本軍ガ甲板部船用品、舵手用
 具、掌帆具、食器、廚房及火災用物品、救護用具、
 特殊衣類、文化用品、船舶無線電信器材、乗組

1着、私物、食糧物品、機関部、部分品、各種器具及
材料ヲ掠奪ニテコトガ明ラカトナツタ。

太平洋水域軍事檢察官

法務中佐

署名 ニルイタフフ

2310

書類 才 = 三。号

證

余 中山 登 「余が 日本語 及び 露西亞
語 = 精通セル者ナルコト並ニ 露西亞語原
文 及び 日本語 原文ヲ対照シ / 上右ハ本書
類ヲ眞実ニ且 正確ニ 認セルモノナルヲ確
證セルコトヲ茲ニ證ス

昭和 二一年 九月 三日

中 山 登

署名

6